

東松山市高坂地区における『水害リスクと居住地の 選択に関するアンケート調査』 分析結果報告書

2021 年 3 月

東京都市大学 都市生活学部 都市安全環境研究室

調査担当：4年 泉 磨理菜

講師 諫川 輝之

目次

はじめに.....	3
1. 調査目的.....	4
2. 調査方法.....	4
2.1 対象地の概要.....	4
2.2 調査実施概要.....	4
2.3 調査項目.....	5
2.4 結果の見方.....	6
3. 回答者属性.....	6
4. 分析結果.....	7
4.1 居住地選択時における水害リスクの位置づけ.....	7
4.2 浸水想定区域内外での違い.....	8
4.3 属性による違い.....	11
5. 単純集計結果.....	13

はじめに

2019年10月の台風19号による被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

東京都市大学都市安全環境研究室では、現在、水害リスクが居住地の選択に与える影響についての研究を行っており、その一環として東松山市高坂地区において『水害リスクと居住地の選択に関するアンケート調査』を実施させていただきました。

おかげさまで、500名近くの市民の方々から回答をいただき、郵送配布・回収によるアンケートとしては高い回収率となりました。お忙しい中、調査の実施にご理解・ご協力をいただいた回答者の皆様、各種情報を提供下さった東松山市 秘書室 危機管理課、都市整備部 都市計画課の皆様に厚く御礼申し上げます。

結果をとりまとめましたので、報告させていただきます。

令和3年3月

1. 調査目的

国や市町村では利便性の高いコンパクトシティ化を目指そうと「居住誘導区域」を定め、そこに居住を誘導しています。しかし、この区域の中に水害リスクがある場所が含まれていることも少なくありません。

そこで、本調査では、河川の流域にお住まいの皆様が居住地の選択時に考慮した要素を明確にし、中でも災害リスクがどの程度考慮されているか明らかにすることを目的としています。

2. 調査方法

2.1 対象地の概要

この調査では、埼玉県東松山市 大字高坂、あずま町 1・2・3・4 丁目を対象とします。当該地域を対象地域とした理由としては、新規流入者が多いことから居住地を選択してから日が浅いこと、また、あずま町は浸水想定区域内、高坂は区域外であり、浸水想定区域内外の境界と町域が大方一致していることから、条件をそろえて調査ができると考えたためです。あずま町（2丁目、4丁目）は2019年の台風19号で一部損壊や半壊など、合わせて100戸が被害を受けました。

2.2 調査実施概要

大字高坂、あずま町 1・2・3・4 丁目の全戸を対象に、2020年11月にアンケートを実施しました。調査の概要は表1の通りです。調査票は配達地域指定郵便を用いて2,070票配布し、499票を回収しました。（有効回収率24.1%）

なお、回答は居住地を選択した方にしてもらうことが望ましいため、世帯主もしくは主たる世帯収入者に記入してもらうよう記載しました。

表1 調査概要

配布範囲	埼玉県東松山市大字高坂、あずま町1～4丁目			
回答対象	世帯主もしくは主たる世帯収入者			
配布時期	2020年11月			
配布方法	郵送配布郵送回収			
配布数・回収数・回収率	地域	配布数	回答数	回収率（%）
	大字高坂	1,263	288	22.8%
	あずま町1丁目	332	77	23.2%
	あずま町2丁目	319	84	26.3%
	あずま町3丁目	97	30	30.9%
	あずま町4丁目	59	20	33.9%
	全体	2,070	499	24.1%

2.3 調査項目

調査票は A3 版両面 2 枚で、以下の項目から構成されています。

①住宅の情報

基本的な住宅の情報として、築年数、居住形態、居住年数、一戸建ての場合新築か中古かを選択式で尋ねました。

②移転してきた理由と定住意向

引っ越しの有無、どこから引っ越して来たか、現在の場所に住み始めた理由、自身で現在の住まいの場所を選択したかについて尋ねました。また、定住意向に関しては、現在住んでいる場所に今後も住み続けたいか、移転の予定はあるか、移転の予定がある場合、その理由について尋ねました。

③居住地選択時に重視したこと

現在お住まいの場所を選択した際に重視した度合いについて、提示した 14 項目それぞれについて、「非常に重視した」から「全く重視しなかった」まで 5 段階で評価していただきました。加えて、現在の場所に住み始める際に一番の決め手となった要素を尋ねました。ここでは、14 項目中から選択していただき、項目中に該当するものがない場合は具体的な内容を記入していただきました。

④災害リスクへの考え方

「東松山市水害ハザードマップ」を確認したことがあるか、現在の場所に住み始める際災害リスクについて調べたか、調べた場合どのようにして災害リスクに関する情報を入手したか、現在の住まいの安全性を高める上で一番重視したことは何か、どのような災害の影響を一番不安に思うか、災害の備えについて尋ねました。

また、あずま町 1～4 丁目にお住まいの方に限定して、居住誘導区域に指定されていることを知っていたか、居住誘導区域に指定されていることが居住地選択時の安心材料になったか、浸水リスクがある場所だと知っていたか、事前にリスク地域であると知っていたら居住を考え直したかについても尋ねました。

⑤個人属性・その他

性別、年齢、職業、家族構成、子どもと同居している場合その人数と年齢、介助が必要な方の有無を尋ねました。また、あずま町にお住まいの方を対象として、2019 年の台風 19 号時の被害状況、家屋の被害状況を尋ねました。さらに、自由記述欄を設け、本アンケートや居住地選択に関する内容、台風時の状況などの意見や感想を自由に記入していただきました。

2.4 結果の見方

- ・設問ごとに無回答を除いて集計しているため、有効回答数が異なります。それぞれの結果内の N 数は有効回答数を示しています。
- ・図中では、表示の都合上、表記を簡略化した部分があります。

3. 回答者属性

調査に回答いただいた方々の属性は表 2 に示す通りです。性別では男性が 65.5%、女性が 34.5%、年齢別では 40 代が最も多く 23.1%、次いで 30 代が 22.9%、20 代が 14.8%となっています。職業別では会社員が 43.3%、主婦・主夫が 9.7%でした。家族構成は子と同居が最も多く 48.3%、次いで夫婦が 22.1%でした。

表 2 回答者の属性

		人数	割合			人数	割合	
性別	男性	323	65.5%	職業	会社員	214	43.3%	
	女性	170	34.5%		公務員	47	9.5%	
年齢	10代	8	1.6%		自営業	28	5.7%	
	20代	73	14.8%		主婦・主夫	48	9.7%	
	30代	113	22.9%		学生	34	6.9%	
	40代	114	23.1%		パート・アルバイト	38	7.7%	
	50代	46	9.3%		無職	73	14.8%	
	60代	59	12.0%		その他	12	2.4%	
	70代	61	12.4%		家族構成	ひとり暮らし	94	19.1%
	80代	20	4.1%			夫婦	109	22.1%
	90代以上	0	0.0%	子と同居		238	48.3%	
				親と同居		14	2.8%	
			三世帯同居	27		5.5%		
			その他	11		2.2%		

4. 分析結果

4.1 居住地選択時における水害リスクの位置づけ

現在地に引っ越してきた方を対象に、居住地選択時に災害リスクについて調べたかどうかを尋ねたところ、調べたという方は、57%でした（図1）。また、その調べ方として最も多かったのは「ハザードマップを確認する」ことであり、不動産情報検索サイトを使った方はほとんどいない結果となりました。

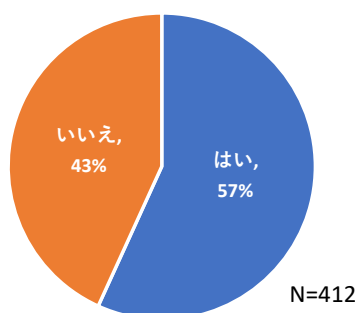


図1 居住地選択時災害リスクについて調べたか

また、居住地選択時に重視した項目を尋ねたところ、住宅の価格や家賃などのコスト面や間取り、駅までの近さを重視する人の割合は約8割と非常に高い結果となりました（図2）。「災害に対する安全性」については、これらに比べて重視した人の割合が少なく、「重視した」と「やや重視した」を合わせて約半数にとどまる結果となりました。

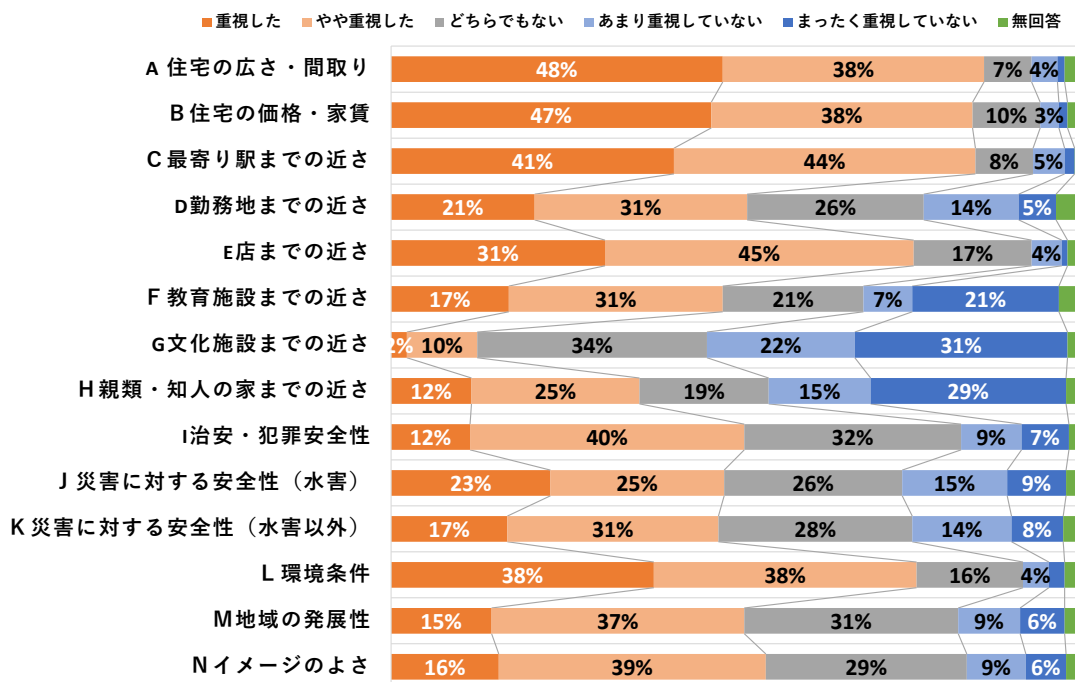


図2 居住地選択時に重視した項目（5段階評価）

4.2 浸水想定区域内外での違い

ここでは、アンケートのデータを居住年数10年未満の回答者（全体の69.0%）に限定してあずま町1～4丁目のデータと大字高坂のデータ間で比較をすることにより、浸水想定区域内外でのリスクへの考え方とその違いを明らかにします。以上の条件を満たす回答いただいた方の属性は表3に示す通りです。

表3 地区ごとの回答者の属性比較（居住年数10年未満に限定）

		あずま町全体	大字高坂			あずま町全体	大字高坂
性別	男性	120(66.3%)	94(59.1%)	居住形態	一戸建て持家（注文）	102(55.4%)	60(37.3%)
	女性	61(33.7%)	65(40.9%)		一戸建て持家（建売）	38(20.7%)	5(3.1%)
年齢	10代	2(1.1%)	5(3.1%)	一戸建て借家	0(0.0%)	1(0.6%)	
	20代	22(12.2%)	50(31.3%)	分譲マンション	0(0.0%)	0(0.0%)	
	30代	62(34.3%)	44(27.5%)	賃貸のアパート・マンション	42(22.8%)	91(56.5%)	
	40代	49(27.1%)	28(17.5%)	社宅・寮	2(1.1%)	4(2.5%)	
	50代	15(8.3%)	18(11.3%)	その他	0(0.0%)	0(0.0%)	
	60代	19(10.5%)	8(5.0%)	築年数	1年未満	4(2.2%)	31(19.4%)
	70代	10(5.5%)	7(4.4%)		1年以上3年未満	27(14.7%)	30(18.8%)
	80代	2(1.1%)	0(0.0%)		3年以上5年未満	21(11.4%)	39(24.4%)
	90代以上	0(0.0%)	0(0.0%)		5年以上10年未満	112(60.9%)	39(24.4%)
職業	会社員	91(50.3%)	85(52.8%)		10年以上20年未満	11(6.0%)	4(2.5%)
	公務員	21(11.6%)	15(9.3%)		20年以上30年未満	0(0.0%)	0(0.0%)
	自営業	7(3.9%)	6(3.7%)	30年以上50年未満	0(0.0%)	6(3.8%)	
	主婦・主夫	18(9.9%)	12(7.5%)	50年以上	0(0.0%)	0(0.0%)	
	学生	7(3.9%)	25(15.5%)	わからない	9(4.9%)	11(6.9%)	
	パート・アルバイト	19(10.5%)	6(3.7%)				
	無職	16(8.8%)	9(5.6%)				
	その他	2(1.1%)	3(1.9%)				
	家族構成	ひとり暮らし	16(8.8%)	61(38.1%)			
夫婦		36(19.9%)	30(18.8%)				
子と同居		121(66.9%)	53(33.1%)				
親と同居		2(1.1%)	3(1.9%)				
三世同居		4(2.2%)	4(2.5%)				
その他		2(1.1%)	9(5.6%)				

居住地選択時に重視した項目を地域別にみていくと、「災害に対する安全性（水害）」の項目について、浸水想定区域外の高坂で重視した割合が区域内のあずま町と比べて高いことが明らかになりました。一方、あずま町の住民は、「地域の発展性」や「イメージの良さ」を重視したと答えた割合が大きい結果になりました。なお、住宅の広さ・間取りや住宅の価格・家賃など、全体が重視していた項目に関しては地域間で差がみられませんでした（図3）。

また、現在の住まいの安全性を高める上で一番重視したことを尋ねたところ、両地域で結果が大きく異なっており、あずま町では「建物の構造」が特に重視されていた一方、高坂では「建物の立地（地形）」が重視されていたことが明らかになりました（図4）。このことから、浸水想定区域内の居住者は、住まいの安全性を高める上で、建物の構造を意識していた反面、立地について考慮する優先度が下がり、結果的にリスク地域に住み始めたと推測できます。

居住地選択時に水害リスクについて調べた人の割合を比較したところ、浸水想定区域内外で有意差は認められませんでした（図5）。また、ハザードマップを居住地選択時に確認したかどうかを尋ねたところ、浸水想定区域内のあずま町の住民の方が確認している人の割合が高いことが明らかになりました。このことから、居住地選択時の水害リスクに関する情報収集量に地域間で大差はないといえます。

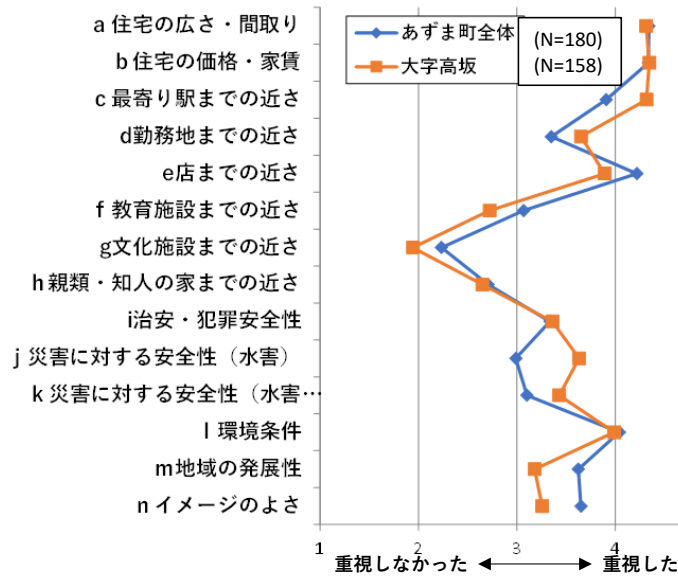


図3 地域ごとの重視した項目の平均値

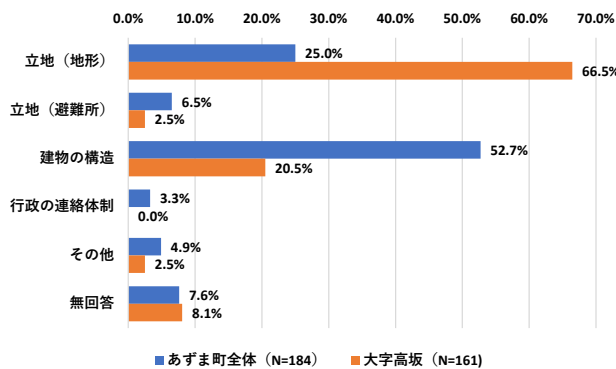


図4 現在の住まいの安全性を高める上で一番重視したこと

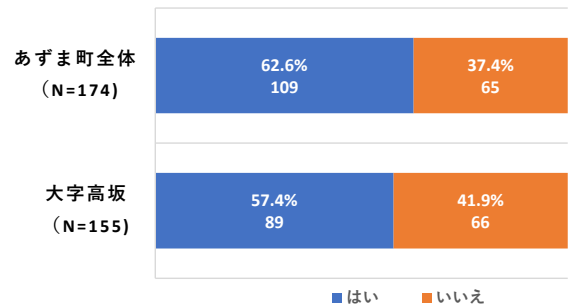


図5 居住地選択時水害リスクについて調べたか

次に、浸水想定区域内であるあずま町の住民に限定した質問の結果を以下に示します。現在の住まいに水害リスクがあることを知っていたか尋ねたところ、半数強の住民は、水害リスクがあることを知らずに住み始めていたことが明らかになりました (図6)。居住地選択時に災害リスクについて調べたと回答した人でも約3割は知らなかったとすることから、リスク情報を正しく理解することの難しさを示しているといえます。一方、その他の住民は、水害リスクが存在することは知っていたもののそれ以外の項目を優先したか、リスクは低いと判断して住み始めたものと考えられます。

また、水害リスクがあることを知らなかったと回答した人を対象として、もし居住地選択時に水害リスクがあることを事前に不動産屋などから説明されていたら、そこに住むこと

を考え直したと思うかについても尋ねました。その結果、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた人は全体の約 85%であり（図 7）、居住地選択時にリスク情報を入手する機会を増やすこと自体は重要であるといえます。

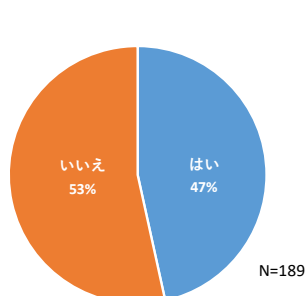


図 6 水害リスクがあることを知っていたか

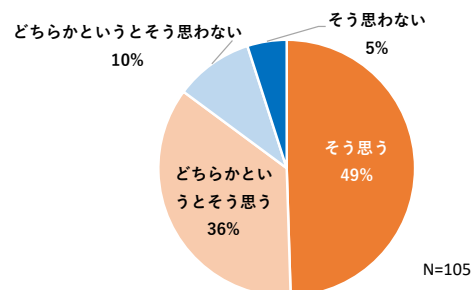


図 7 事前にリスクがあると知っていたらそこでの居住を考え直すか

4.3 属性による違い

居住地選択時に災害リスクについて考慮するかどうかは、居住者の属性によっても異なるのではないかと考えました。そこで、

- (1) 子どもの有無
- (2) 水害被害の有無

以上の 2 つの属性について、それぞれの間の違いを検討しました。

(1) 子どもの有無による違い

子どものいる世帯と子どものいない世帯では、子どものいる世帯の方が居住地選択時災害リスクについて調べている割合が高いという結果になりました（図 8）。しかし、居住地選択時に災害に対する安全性をどの程度重視したか、その程度を比較すると、両者間に大差はありませんでした（図 9）。

(2) 水害被害の有無による違い

水害の被害を受けた人は移転の意向が高まるという仮説を立てましたが、台風 19 号の被害の有無に関わらず、約 8 割の人が今後も住み続けたいという回答であり、移転の意向に影響はみられないことが明らかになりました（図 10）。ローンが残っていたり、子どもの転校の問題などもあり、被害を受けたからといってただちに移転を考えるという訳ではないことがわかります。しかし、今後移転の予定があると回答した 3 名の住民に対し、複数回答可能でその移転理由を尋ねたところ、すべての回答に「災害リスクがあるから／災害被害に遭ったから」を含んでいました。

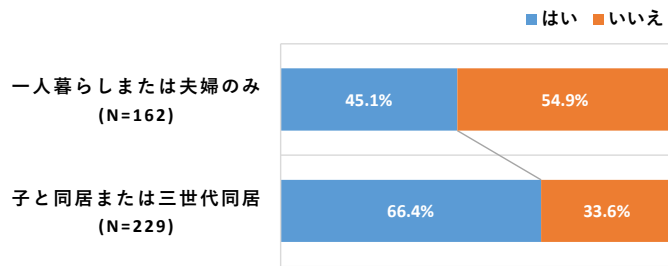


図 8 居住地選択時に水害リスクについて調べたか

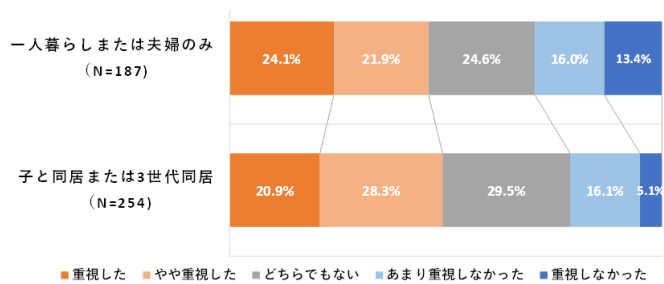


図 9 居住地選択時の災害リスクに関する重視の度合い

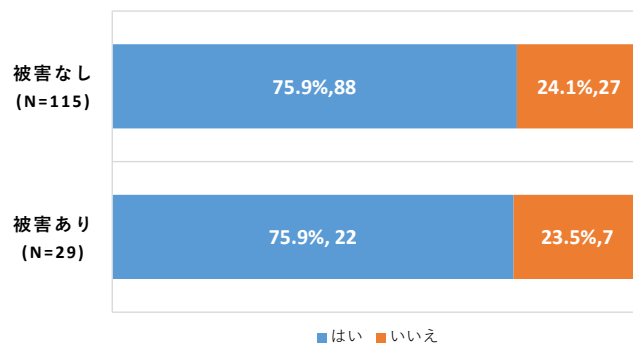


図 10 今後も現在の住まいに住み続けたいか

5. 単純集計結果

はじめに、お住まいの地域をお答えください。

項目	件数	構成比
大字高坂	288	57.7%
あずま町1丁目	77	15.4%
あずま町2丁目	84	16.8%
あずま町3丁目	30	6.0%
あずま町4丁目	20	4.0%

問1 現在お住まいの形態について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

項目	件数	構成比
一戸建て持家（注文）	293	58.7%
一戸建て持家（建売）	60	12.0%
一戸建て借家	2	0.4%
分譲マンション	0	0.0%
賃貸のアパート・マンション	135	27.1%
社宅・寮	7	1.4%
その他	2	0.4%

問2 一戸建て持家・借家の方にお聞きします。居住開始時の状態として、あてはまるものに○をつけてください。

項目	件数	構成比
新築	346	96.9%
中古	11	3.1%

問3 現在お住まいの場所での居住年数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

項目	件数	構成比
1年未満	64	12.9%
1年以上3年未満	89	17.9%
3年以上5年未満	63	12.7%
5年以上10年未満	129	26.0%
10年以上20年未満	53	10.7%
20年以上30年未満	11	2.2%
30年以上50年未満	33	6.7%
50年以上	54	10.9%

問4 現在のお住まいの築年数について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

項目	件数	構成比
1年未満	38	7.6%
1年以上3年未満	66	13.3%
3年以上5年未満	65	13.1%
5年以上10年未満	165	33.2%
10年以上20年未満	77	15.5%
20年以上30年未満	21	4.2%
30年以上50年未満	37	7.4%
50年以上	8	1.6%
わからない	20	4.0%

問5 あなたは別の場所から引っ越してきましたか。

項目	件数	構成比
はい	438	88.5%
いいえ	57	11.5%

(A) 引っ越してきた方にお尋ねします。どこから引っ越してきましたか。(1つに○)

項目	件数	構成比
市内	101	23.1%
埼玉県内	237	54.1%
埼玉県以外の関東	64	14.6%
関東地方以外	36	8.2%

(B) 現在の場所に住み始めた理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

表中網掛け部分はその他から多かった意見を新しい項目として追加したものです。

項目	件数	構成比
より好条件の物件だったから	161	37.1%
転勤・進学	99	22.8%
結婚・同棲	95	21.9%
コスト面	32	7.4%
更新時期が来たから	25	5.8%
家族との同居開始	21	4.8%
出産	16	3.7%
身内の家の近くに住むため	13	3.0%
土地を所有していた	9	2.1%
その他	58	13.4%

(C) あなたは現在の場所に住み始めるとき、ご自身でその場所を選択しましたか。

項目	件数	構成比
はい	394	90.8%
いいえ	40	9.2%

問 6 あなたが現在お住まいの場所を選択した際に重視したことについてお聞きします。選択していない方は、今後引っ越すとしたら重視することについてお答えください。(a)～(n)のそれぞれの項目について、ご自身のお考えに近いものを1つずつ選び、○をつけてください。

項目	重視した		やや重視した		どちらでもない		あまり重視していない		まったく重視していない	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
a 住宅の広さ・間取り	231	48.4%	182	38.2%	33	6.9%	18	3.8%	5	1.0%
b 住宅の価格・家賃	223	46.8%	182	38.2%	47	9.9%	13	2.7%	6	1.3%
c 最寄り駅までの近さ	197	41.3%	210	44.0%	40	8.4%	22	4.6%	7	1.5%
d 勤務地までの近さ	100	21.0%	148	31.0%	123	25.8%	66	13.8%	26	5.5%
e 店までの近さ	149	31.2%	215	45.1%	82	17.2%	21	4.4%	4	0.8%
f 教育施設までの近さ	82	17.2%	149	31.2%	98	20.5%	34	7.1%	102	21.4%
g 文化施設までの近さ	11	2.3%	49	10.3%	160	33.5%	103	21.6%	148	31.0%
h 親類・知人の家までの近さ	56	11.7%	117	24.5%	90	18.9%	71	14.9%	136	28.5%
i 治安・犯罪安全性	55	11.5%	191	40.0%	151	31.7%	42	8.8%	33	6.9%
j 災害に対する安全性（水害）	111	23.3%	121	25.4%	124	26.0%	73	15.3%	41	8.6%
k 災害に対する安全性（水害以外）	81	17.0%	147	30.8%	135	28.3%	69	14.5%	36	7.5%
l 環境条件	183	38.4%	183	38.4%	74	15.5%	18	3.8%	11	2.3%
m 地域の発展性	70	14.7%	176	36.9%	149	31.2%	43	9.0%	31	6.5%
n イメージのよさ	75	15.7%	186	39.0%	140	29.4%	41	8.6%	28	5.9%

問7 現在の場所に住み始める際、一番の決め手となった要素はなんですか。

問6の項目中から1つ選び、アルファベットでお答えください。該当するものがない場合は具体的な内容をご記入ください。

項目	件数	構成比
a 住宅の広さ・間取り	66	14.1%
b 住宅の価格・家賃	45	9.6%
c 最寄り駅までの近さ	81	17.3%
d 勤務地までの近さ	26	5.5%
e 店までの近さ	38	8.1%
f 教育施設までの近さ	8	1.7%
g 文化施設までの近さ	0	0.0%
h 親類・知人の家までの近さ	28	6.0%
i 治安・犯罪安全性	5	1.1%
j 災害に対する安全性（水害）	16	3.4%
k 災害に対する安全性（水害以外）	7	1.5%
l 環境条件	44	9.4%
m 地域の発展性	7	1.5%
n イメージのよさ	13	2.8%
a~nに該当なし	85	18.1%

問8 現在住んでいる場所にこれからも住みたいですか。

項目	件数	構成比
はい	410	84.7%
いいえ	74	15.3%

問9 今後移転の予定はありますか。

項目	件数	構成比
はい	103	21.1%
いいえ	384	78.9%

問 10 移転の予定について、「はい」と回答された方にお聞きします。移転（予定）の理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	構成比
転勤・進学	44	42.7%
より好条件の物件に住みたいから	23	22.3%
災害リスクがある/災害被害に遭ったから	18	17.5%
家族との同居開始	11	10.7%
マイホーム購入予定のため	11	10.7%
結婚・同棲	9	8.7%
コスト面	5	4.9%
更新時期が来るから	2	1.9%
その他	9	8.7%

問 11 あなたは「東松山市水害ハザードマップ」を確認したことがありますか。

項目	件数	構成比
はい	398	82.6%
いいえ	84	17.4%

【問 12～問 14 は、引っ越してきた方のみお答えください。引っ越していない方は問 15 まで進んでください。】

問 12 現在お住まいの場所に住み始める際に災害リスクについて調べましたか。

項目	件数	構成比
はい	232	57.0%
いいえ	175	43.0%

問 13 問 12 で「はい」と回答された方にお聞きします。どのようにして災害リスクに関する情報を入手しましたか。（あてはまるものすべてに○）

項目	件数	構成比
ハザードマップの確認	170	40.7%
物件検索サイト	5	1.2%
不動産屋での説明	99	23.7%
災害実績を調べる	54	12.9%
地元の人からの口コミ	69	16.5%
その他	21	5.0%

問 14 現在のお住まいの災害に対する安全性を高める上で一番重視したことは次のうちどれですか。(1 つに○) 表中網掛け部分はその他から多かった意見を新しい項目として追加したものです。

項目	件数	構成比
建物の立地（地形）	197	49.7%
建物の立地（避難所等への近さ）	18	4.5%
建物の構造	161	40.7%
行政の連絡体制・サービス	6	1.5%
何も考えなかった	11	2.8%
その他	3	0.8%

問 15 あなたは現在のお住まいで次のうちどのような災害の影響を一番不安に思いますか。
(1 つに○)

項目	件数	構成比
地震	196	41.4%
津波	4	0.8%
火事	48	10.1%
水害	211	44.5%
風害	15	3.2%
土砂災害	0	0.0%

問 16 災害に対する備えとして、以下から実施しているものすべてに○をつけてください。

項目	件数	構成比
非常用持ち出し袋	217	44.7%
食料品の備蓄	262	53.9%
避難所の確認	287	59.1%
緊急時の連絡先の確認	156	32.1%
火災保険への加入	357	73.5%
地震保険への加入	231	47.5%
その他	20	4.1%

【問 17～問 23 は、あずま町にお住まいの方のみお答えください。高坂にお住まいの方はⅣまで進んでください。】

問 17 平成 31 年（2019 年）4 月以降に引っ越してきた方にお尋ねします。
あなたはあずま町が居住誘導区域に指定されていることを知っていましたか。

項目	件数	構成比
はい	9	10.5%
いいえ	77	89.5%

問 18 「はい」と回答された方にお聞きします。居住誘導区域に指定されていることが居住地を選ぶ際の安心材料になりましたか。(1つに○)

項目	件数	構成比
なった	0	0.0%
どちらかというとなった	4	50.0%
どちらかというとなっていない	1	12.5%
なっていない	3	37.5%

問 19 現在お住まいの地域に住み始めるときから、浸水のリスクがあることを知っていましたか。

項目	件数	構成比
はい	88	46.6%
いいえ	101	53.4%

問 20 「いいえ」と回答された方にお聞きします。もし居住地を選択する際に、浸水のリスクがあることを事前に説明されていたら、そこに住むことを考え直したと思いますか。(1つに○)

項目	件数	構成比
そう思う	50	49.5%
どちらかというと思う	36	35.6%
どちらかというと思わない	10	9.9%
そう思わない	5	5.0%

問 21 昨年 10 月の台風 19 号に関してお尋ねします。
どのような被害に遭われましたか。(あてはまるものすべてに○)

項目	件数	構成比
なし	152	77.2%
土地冠水	12	6.1%
床上浸水	18	9.1%
床下浸水	14	7.1%
その他	14	7.1%

問 22 その時の家屋の被害状況を教えてください。(1つに○)

項目	件数	構成比
被害なし	160	83.8%
大規模損壊	2	1.0%
半壊	15	7.9%
一部損壊	5	2.6%
その他	9	4.7%

問 23 台風 19 号の影響を受け、現在のお住まいにおける浸水リスクへの認識は変わりましたか。

項目	件数	構成比
はい	183	93.4%
いいえ	13	6.6%

最後にご意見・ご感想がございましたらご自由にご記入ください。

多くの回答をいただきありがとうございました。個人情報を含むため、公開は差し控えさせていただきます。